

## 6 新聞広告、ポスター、チラシ等

## 畜産農家の皆様へ

**今一度、消毒の徹底をお願いいたします。**

1. 農場への飼養管理者以外の立入を禁止する。（「立入禁止」の注意書き等）
2. 農場に入場する車両は、動力噴霧器等を使って消毒する。
3. 農場の入り口には、踏み込み消毒槽を設置し、農場周辺の消毒を継続的に実施する。  
また、踏み込み消毒槽の消毒液は定期的に交換する。（消毒薬は、炭酸ソーダ 4 % 液等）

宮崎県 JAグループ宮崎 宮崎県 JA畜産防疫対策本部

口蹄疫についてのご理解とお願い  
 (平成 22 年 5 月 12 日 宮崎日日新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、夕刊デイリー新聞)

こう えてい えき

# 口蹄疫についてのご理解とお願い

宮崎県は、日本有数の畜産県です。畜産は本県農業産出額の約6割を担っており、生産から加工、流通に至る幅広い産業となっております。今回の病気の発生は本県発展に欠かせない「畜産業の一大危機」となっており、国、市町村および関係団体、さらには自衛隊にもご支援をいただきましたが、家畜伝染病「口蹄疫」の拡大防止に懸命に取り組んでおります。皆さまのご理解とご協力を願います。



宮崎県口蹄疫対策本部  
 本部長 東国原 英夫

## 発生農場周辺への対策

### ① 発生農場での家畜処分・消毒

ウイルスを封じ込める目的から同じ農場内の家畜すべてを処分するうえ、家畜とその排せつ物や飼料などを、消毒薬とともに掘り深くに埋める「埋却処分」を行います。さらに畜舎や飼育に使用した器具類も徹底的な消毒を行います。  
 なお、ウイルス自体は酸やアルカリに非常に弱いこともあり、地中内で完全に死滅します。

### ② 周辺への拡大防止活動

周辺への拡大防止の観点から、周辺道路の交通規制を行い、消毒薬散布など消毒作業を行うことがあります。  
 ご理解とご協力をお願いします。

### ③ 周辺農場の清浄性確認

周辺に牛や豚などが飼養されている農場がある場合は、感染しにくいことを確認するため、当面の間、お電話などによる家畜の状況確認を行っています。

## 県内畜産関係者への対策

### ① 主要道路における関係車両の消毒

飼料運搬車など農場に出入りする可能性のある車両に消毒薬を散布し、周辺への拡大防止を図っています。  
 なお、一般車両もお申し出があれば消毒いたします。  
 ・24時間態勢の消毒ポイント 25か所  
 ・主に畜間態勢の自主消毒ポイント 25か所 (H22.5.11現在)

### ② 畜産農場での消毒・健康観察

県内各地の農場に、消石灰などの消毒薬が配布されており、各農場では、自衛措置も含めた消毒に努めるとともに、日夜、飼養されている牛や豚などの健康観察を行っています。

### ③ 家畜が集まる催事の自粛

家畜などの移動制限に加え、牛や豚などが多く集まる機会での感染拡大を防ぐ目的で、「家畜せり市」や「家畜品評会」の開催を中止しております。  
 また家畜への人工授精作業なども停止しております。ご理解、ご協力をお願いします。

## 県民の皆さまへのおお願い

### ① 防疫措置へのご理解をお願いします。

口蹄疫ウイルスの車両を通じた感染拡大を防止するため主要道路に、「消毒ポイント」を設置し、車両などについて着したウイルスを死滅させるための作業を行っています。  
 なお、関係者以外の畜舎など農場への立ち入りも極力ご遠慮いただきますようお願いいたします。

### ② 風評被害の防止

口蹄疫は、人に感染することはありません。また、感染牛などの肉や牛乳が市場に出回ることはありません。  
 今後とも、宮崎牛、宮崎ハマユウポークなど、宮崎県畜産品のご愛用をよろしくお願いいたします。

### ③ その他

県内各地で催し物やイベントが中止される動きがあります。防疫対策本部では、すべての行事中止を要請しているわけではありません。  
 地域の状況や参集範囲など充分にご検討いただき、過度の対応にならないよう、ご理解、ご協力をお願いします。

## ★口蹄疫とは

牛や豚、水牛などの偶蹄類のつめの数が個数の動物が感染する病気で、極めて感染力が強い病気です。  
 放牧しておく周囲の牛や豚などに急速に伝染し、発育や乳量の低下などを引き起こします。  
 経済的損失は大きく、国際的にも最も警戒すべき家畜伝染病のひとつです。

## ★わが国での対策

家畜伝染病予防法により、口蹄疫が発生した場合、その発生を最小限に食い止めるため、同一農場で飼養されているすべての偶蹄類家畜を処分し、他の地域への移動制限を行うとともに、主要道路に設けた消毒ポイントで畜産関係車両を消毒するなど、まん延防止策の徹底を図ることになっています。

## ★使用中の消毒薬

口蹄疫の原因となるウイルスは、酸やアルカリに非常に脆弱で、速に分解・死滅することから、現在県内で使用されている消毒薬は、殺菌力が高く、また、人や動物には影響のないものとなっています。

詳しくは、県ホームページをご覧ください。

宮崎県 口蹄疫 検索

ほんとうに、ありがとうございます。～全国のみなさまへ～  
(平成 22 年 8 月 1 日 全国紙：朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞)

ほんとうに、  
ありがとうございます。

全国のみなさまへ。口蹄疫は終息しました。

4月26日に宮崎県で発生した口蹄疫によつて、養豚農家のみなさまをはじめ、全国のみなさまには、大変なご心配と迷惑をおかけしました。これまで、国、各都道府県、市町村、JAなどの関係団体、自衛隊にもご支援をいただきながら、懸命に防疫活動に取り組んでまいりました。その結果、口蹄疫は終息し、7月27日、家畜伝染病予防法に基づき移動制限区域・搬出制限区域を全面解除することができました。

消毒などの防疫対応をいただいた隣県をはじめ各都道府県、関係機関のみなさま。全国から宮崎へ来ていただいた獣医師、現場作業員のみなさま。募金、義援金、ふるさと納税、物資のご支援をいただいた全国のみなさま。その他、多数の激励メッセージ、宮崎を応援する活動などをいただいたみなさま。ほんとうに、ありがとうございます。みなさまからの「がんばろう」けつして振れることはありません。

宮崎県は、今回の口蹄疫から多くを学びました。一つ一つを教訓に、家畜伝染病への強固な防疫体制を確立し、おいしさと安全安心な食づくりに取り組んでいます。いままです以上におもてなしの心を大切に、力を合わせ、全国からのお客様をお迎えます。

ぜひ、宮崎へお越しください。みなさまをお待ちしております。

宮崎県

宮崎県の口蹄疫に関する情報 [www.pref.miyazaki.lg.jp](http://www.pref.miyazaki.lg.jp)

# 口蹄疫終息宣言から1年

## 元気な宮崎を取り戻すために…「がんばろう宮崎！」

### 私たちは忘れない！

#### 発生から終息まで

平成22年

- 4/20 発生確認
- 5/18 非常事態宣言
- 5/22 ワクチン接種開始
- 7/27 非常事態宣言解除
- 8/27 終息宣言

#### 口蹄疫の影響

##### ●家畜の殺処分

牛	69,454頭
豚	227,949頭
その他	405頭
計	297,808頭

二度と発生させないための  
日本一の防疫体制の確立



8月27日、昨年の口蹄疫終息宣言から1年を迎えます。昨年の口蹄疫は、約30万頭に及ぶ家畜の犠牲を招き、畜産業のみならず、関係産業や観光業に大きな被害を及ぼしましたが、我が国の畜産を守るために大膽な断行を断行し、消毒作業に当たっていた畜産農家のみなさん、そして、温かいご支援をいただいた県民や関係者の御協力のおかげで、改めて元気に復旧を申し上げます。

償いとしては、再生・復興方針に即した「産業・観光・観光・観光・観光」の推進、自治体との連携、全国との交流による畜産の振興、「畜産の再生」、「産業の振興」、「観光の振興」という目標に向けて、下記の事項を中心に全力で取り組んでまいりますので、皆様の一層の御協力をよろしくお願いいたします。

1. 県として、市町村、関係団体と連携して全力で取り組むこと
  - これまで、防疫マニュアルの見直し、防疫対策実施や防疫協定の締結などに取り組んできましたが、今後とも全国の先鋒となる防疫体制の確立を推進します。
  - 畜産農家が安心して経営できるよう、家畜防疫体制の強化、県内全農場の巡回指導を実施します。
  - 終息宣言を前にあつておこなった畜産農家に対する支援は、個別の聞き取りを行いながら、農家に寄り添った支援策の検討・実施を推進していきます。
  - 農業者が行う畜産を中心とした6次産業化や畜産の連携の取組について、口蹄疫復興対策ファウンデーションを活用して支援を行います。
  - 新たな防疫対策、防疫対策に関するガイドラインや新たな消費者ニーズに基づく牛肉・猪肉の在り方の検討を進め、安全・安心で付加価値の高い畜産経営を目指します。
  - 市町村が実施するシニア畜産研修などへの参加促進や、防疫対策に関する研修やセミナーによる支援のほか、今後も、市町村が実施する研修、セミナー、地域経済の活性化に向けた支援を行います。
  - 農工・観光関係等を行う畜産拡大、商店街活性化のほか、コンベンション・スポーツキャンプの誘致等による、県内経済の回復や雇用創出につながる関係者の取組について支援を行います。
  - 畜産関係者などを通じて、県民の消費拡大に取り組めます。
2. 畜産農家の支援へ
  - 経営の再開・継続
    - 県としても、経営の安定化に向けて全てがサポートしてまいりますので、再開及び継続に努めていただくことに、研修・相談等、経営の多角化にも積極的に取り組めることをお願ひします。
  - 防疫対策の推進
    - 自分の畜産は自分で守る」という思いと、毎日の農場の消毒はもとより、毎月20日の「県内一斉消毒の日」には、一層の消毒の徹底をお願いします。
    - 防疫対策推進委員会の設置
      - 自治体の畜産関係者、畜産関係者の構成に際して、畜産関係者が守るべき新しい「防疫対策推進委員」の設置をお願いします。
      - 正確な情報・防疫知識の確保
        - 畜産関係者への研修や、関係者や地域での研修会などへの積極的な参加を通して、正確な情報入手に取り組むとともに、地域全体での互いの声かけをお願いします。
  - 3. 観光の振興へ
    - 防疫対策への協力
      - 国内外からの来賓者が利用する交通施設、ホテル、ゴルフ場等では、消毒マットによる靴底消毒等の水密防疫を実施していただきますので御協力をお願いします。
    - 畜産関係者への協力
      - 観光客の誘致や観光客の受け入れなど、地域経済の活性化のため、市町村や観光関係者等の行う様々なイベントへの参加など、県内経済の活性化への御協力をお願いします。

宮崎県知事 河野俊嗣

### 私たちは前に進む！

#### 終息から再生・復興へ

平成22年

- 8/28 西都での再開
- 10~11月 首都圏でのイメージアップイベント
- 10/20 県内一斉消毒の日開始
- 11/1 児湯地域での再開
- 11/1 高鍋農業高校家畜導入
- 11/2 農業大学校家畜導入
- 11/20 プレミアム商品券発行

平成23年

- 3/4 口蹄疫復興財団設立
- 4月 防疫マニュアル改訂
- 4/19 防疫演習
- 5/20 再生・復興方針工程表策定
- 8/23 冷凍野菜加工施設稼働開始

バランスのとれた畜産・農業の構築と  
県内経済・県民生活の回復

### 防疫協定の締結



防疫対策に関する協定書について、4月に発生時の防疫業務を行う4団体と、7月に水密防疫を行う8団体と締結し、防疫体制の確立に努めています。

### 地域連携の取組



郡城市と三股町に続き、小林市、えびの市及び高原町の間で防疫業務に関する市町村間連携協定調印式が、7月に締結されると、各地域での連携の強化が進められています。

### 県内一斉消毒の日



復興の第一歩は、毎日の消毒から。毎日の消毒作業に加えて、特に毎月20日を「県内一斉消毒の日」として、より徹底した消毒活動を実施しています。

### 畜産の再開



長い間、待ち望んでいた経営再開。ようやく家畜が導入された瞬間です。全国のモデルとなる畜産の新生に向けて、力強く復興が進んでいます。

### 農大校・高鍋農業高校家畜導入



高鍋農業高校「舞鶴牧場」の復興に役立ててもらおうと、山形県米沢市の畜産農家から子牛の贈与が行われました。全国の目標の確かなり支援に深く感謝しています。

### 冷凍野菜加工施設



西都市に完成した九州最大級の冷凍野菜加工施設です。新苗運搬や産地産直、雇用創出による地域経済の活性化で、口蹄疫からの再生・復興に取り組めます。

### 口蹄疫復興宝くじ

口蹄疫で被災した地域における復興対策事業の財源に充てるため、宮崎県、熊本県、大分県、鹿児島県が共同で発売します。

- 発売期間/平成23年10月15日～26日
- 抽選日/平成23年10月27日
- 発売枚数/50億円
- 発売金額/1枚 200円
- 当せん金/1等(前後兼取)で、5,000万円

### 消費拡大イベント

①畜産農産物消費拡大イベントの開催  
JAグループ直轄による県民へ産地の高品質を込めた、お得意牛肉パックを販売します。

②おみやぎ復興・再生プレミアム牛肉高品質券(優待)の発行  
JAグループ直轄、畜産関係者と協力して、県内の牛肉販売店等(指定)で県産牛肉を購入したり、レストラン(指定)等で県産牛肉料理を食卓にする機会に際して、毎月10日発行、販売します。なお、この高品質券は、販売店の提携の高品質が購入できるプレミアム高品質券となります。

③おみやぎ復興・消費・平成23年10月～平成23年12月  
利用…平成23年10月～平成24年2月

宮崎県

撮影場所/川南町宮村上牧場



# NEXT STAGE

## 忘れない そして 前へ

### 強固な防疫体制の構築



農場防疫・地域防疫・水際防疫の徹底

### 若い力の躍動



未来へ向かって研さんを積む農業高校生

### 口蹄疫終息宣言から2年を迎えて



平成22年8月27日に、「口蹄疫終息宣言」が出され、130日間に及ぶ見えない敵との戦いを終え、新たなスタートを切ってから、本日で2年を迎えます。

この2年の間、県では、平成22年8月19日に策定した「口蹄疫からの再生・復興方針」に掲げた目標①早急な県内経済の回復、県民生活の回復 ②全国のモデルとなる畜産の再構築 ③産業構造・産地構造の転換に向けて、緊急的な対応を行うとともに、中長期的な課題もしっかりと対応するため、平成23年5月20日に工程表を策定（平成24年4月24日に改訂）し、スピード感を持って、取組を進めてまいりました。

この工程表に基づいた取組につきましては、畜産農家、関係団体、市町村の皆さまに、多大なる御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

「早急な県内経済の回復、県民生活の回復」につきましては、口蹄疫に引き続いて発生した、高病原性鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火、東日本大震災などを含めたさまざまな要因もあって、回復基調という状況にあるとは言えず、今後とも、県内経済の活性化に取り組む必要があります。

「全国のモデルとなる畜産の再構築」につきましては、その前提となる二度と同じ事態を引き起こさない防疫体制の確立に取り組むとともに、生産性の向上に向けたさまざまな取組などが主体的に進められており、今後も、「安全・安心で付加価値や収益性の高い畜産の構築」（本県畜産の新生）の具現化に向けて鋭意取り組んでいく必要があります。

「産業構造・産地構造の転換」につきましては、冷凍野菜加工施設などを核とした付加価値の高い土地利用型農業や、6次産業化などの取組が進んでおり、今後さらに加速させていく必要があります。

このような状況におきまして、引き続き、被害を受けた方々にしっかりと寄り添いながら、終息宣言から2年の節目を機に、「忘れない そして 前へ」を合い言葉に、再生・復興の新しいステージに向かって、より力強く前進していくことが重要であると考えております。

私も、関係団体、市町村と連携を図りながら、全力で取り組んでまいりますので、畜産農家をはじめ、県民の皆さまの御理解と御協力をよろしく申し上げます。

平成24年 8月27日

宮崎県知事 河野 俊嗣

### あの経験を語り継ぐ



口蹄疫メモリアルセンター オープン

### 宮崎の畜産新生へ



畜産新生プロジェクト 本格始動

# 口蹄疫終息宣言から2年

目指せ！日本一！宮崎牛！

第10回 全国和牛能力共進会

期 日：10月25日（木）～29日（月）  
メイン会場：ハウステンボス（長崎県佐世保市）



大宮マスコット  
かきべこん

口蹄疫メモリアルセンター  
本日、オープン！

日 時：8月27日（月） 午前10時～  
場 所：県農業科学公園 農業科学館 2階  
〒884-0005 高鍋町大字持田5733（県立農業大学校敷地内）  
問い合わせ先：0983-23-7447

## 宮 崎 県

ポスター：元気を産もう。～日本中にありがとう～





ポスター：心ひとつにがんばろう！宮崎！！





チラシ：宮崎県産の食肉、牛肉は安全です！

県民の皆様へ

宮崎県産の食肉・牛乳は安全です！



- ・ 口蹄疫は、牛、豚等の偶蹄類の動物の病気であり、人に感染することはありません。
- ・ 肉や牛乳などの流通・販売にあたっては、食肉衛生検査所などで厳しい検査を実施しておりますので、感染牛の肉や牛乳が市場に出回ることはありません。
- ・ 仮に感染牛の肉や牛乳を摂取しましても人体には影響ありません。

宮崎県・宮崎県畜産協会・JA宮崎中央会・宮崎県配合飼料価格安定基金協会



© 高森朝雄・ちばてつや／講談社